

【試合結果】

女子 決勝トーナメント		決勝	
日時	平成28年12月25日(日)	11:40	~
会場	苫小牧市総合体育館		
結果	札幌東月寒中 札幌	$\left. \begin{array}{r} 6 - 6 \\ 9 - 14 \\ 6 - 13 \\ 18 - 13 \\ \text{OT} \end{array} \right\}$	札幌清田中 札幌
審判	主審 佐藤 陽子	副審 菊地 洋平	

第31回北海道中学校バスケットボール新人大会



【ボックススコア】

札幌東月寒中		札幌						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	R	F
4	大林 柊	DNP	0					
5	松田 佳子	×	2	0	1	0	1	1
6	田島 若菜	×	6	0	2	2	3	4
7	近藤 菜々	DNP	0					
8	山川 萌絵	×	14	0	6	2	17	3
9	満井 桃花	×	5	1	0	2	1	4
10	菊地 彩良	/	0	0	0	0	0	0
11	篠原 莉音	×	12	0	6	0	7	0
12	稲船 遥香	/	0	0	0	0	0	1
13	高橋 瑠奈	DNP	0					
14	高橋 未来	DNP	0					
15	齋藤 彩華	DNP	0					
16	0	DNP	0					
17								
18	0	DNP	0					
HC	高柳 裕一							
合計			39	1	15	6	29	13

札幌清田中		札幌						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	R	F
4	船水 結妃	×	2	0	1	0	3	3
5	太田 梓	×	4	1	0	1	3	3
6	岩根 美羽	×	7	1	2	0	2	4
7	川端 麻友	×	14	2	3	2	3	3
8	富永 直	×	16	0	7	2	4	3
9	宮村 月菜	/	3	1	0	0	1	0
10	手塚 美桜	/	0	0	0	0	1	0
11	渡辺 夏帆	DNP	0					
12	山 結衣菜	DNP	0					
13	伊藤 桜優	DNP	0					
14	平野 千華	DNP	0					
15	風間 水菜	DNP	0					
16	山賀 妃陽	DNP	0					
17	新田 杏樹	DNP	0					
18	山賀 陽由	DNP	0					
HC	高橋 和也							
合計			46	5	13	5	17	16

出場 ×:スターター /:途中出場 DNP:出場なし
 得点 3P:3ポイントシュート 2P:2ポイントシュート FT:フリースロー

【選評】

女子決勝戦は両者共にシード校として順当に勝ち上がってきた第一シードの札幌東月寒と第二シードの札幌清田の対戦。札幌全市大会の際には準決勝で対戦し、3点差で札幌東月寒が勝利しているが、どのような試合展開になるのか大変興味深い試合である。

1Q:両者共に早い展開から攻撃を仕掛け、どちらも得点をとるものの、残り3分まで一歩も譲らず一進一退の攻防が続く。清田はスクリーンからオフenseの機会を作り、東月寒は鋭いドライブからの合わせで得点のチャンスをうかがう。共にタイトで厳しいディフェンスから得点を奪うことができず、6-6のロースコアで1Q終了。

2Q:激しいDEFからオフenseの流れを掴もうとした札幌清田は、残り5分で#7の3psをきっかけに均衡を破る。しかし、東月寒#11がファールをされながらもアウトサイドのシュートを決め、流れを断ち切る。東月寒#6#8を中心にインサイドで得点を奪うと、清田#6が3psを決めて点差をつけるが、つかさず東月寒#9が3psを決めて13-13と同点に。残り3分を切って清田#7が3psを決めて3点差をつけるなど、その後もオフenseリバウンドに飛びついてオフenseの機会を増やし、切れのあるドライブから加点。徐々にリードを広げた清田が5点リードの20-15で2Q終了。

3Q:お互いにオールコートDEFで開始ノーゴール。残り4分、清田がオフenseリバウンドからファールを受けフリースローとなり、流れが清田に。清田は東月寒のマークが甘くなった隙にアウトサイドから得点を積み重ねる。残り3分でオフenseのリズムがつかめずパスミスから清田が速攻で加点。10点差となったところで東月寒は1回目のTOを取る。東月寒#9のドライブと#8のリバウンドシュートから流れを引き戻そうとする。しかし、清田の堅守から東月寒がミス。最後は清田#8がドライブジャンプシュートを決めて33-21、清田が12点差をつけて3Q終了。

4Q:東月寒のオフenseからスタート。しかし、清田の堅守が続く、東月寒が得点を奪えず。一気に速攻等で加点し、37-21との16点差となった残り6分で東月寒は2回目のTOを取る。東月寒はDEFのラインを上げて反撃。#8のインサイドで加点し37-25とした直後、清田が1回目のTOを取る。東月寒がアップテンポのゲームに持ち込みたいところであるが、清田は冷静にゲームを進める。堅実なDEFで東月寒の攻撃を防ぐ。残り4分から清田にバックコートでミスが続く、東月寒が次々と加点。残り2分41秒40-35の5点差となった際に、清田が2回目のTOを取る。その後も東月寒のDEFが機能し、流れは一気に東月寒に。そのような苦しい展開の中、清田#8がインサイドで連続で加点し点差を広げる。東月寒は#8のリバウンドから得点を決めるなど、最後まで勝負を諦めない姿を見せてくれた。

どちらも最後まで勝負を譲らない、決勝戦にふさわしい戦いを見せてくれたことに対し、敬意を表したい。